

ASEAN グローバルプログラム に参加して

吉本 佳奈子
Kanako YOSHIMOTO
物質化学科 2年

1. はじめに

今回参加した ASEAN グローバルプログラムでは、2018年8月28日から9月6日までの10日間でベトナムとシンガポールを訪れ、様々な研修に参加できた。

10日間の中で初めの5日間をベトナムで、残り4日間をシンガポールで過ごした。ベトナムではハノイでの企業訪問、ハノイ工業大学生とのPBLのコンテンツがあり、シンガポールでは企業訪問、南洋工科大学でのいくつかのアクティビティ、日本人ビジネスマンとのトークセッションや講演会といったコンテンツのプログラムであった。

2. 参加目的

高校時代から海外留学に興味があったが、学業的・金銭的に長期留学は難しく、実行に移せていなかった。しかし本プログラムは期間、金額面共に現実的であったため、参加を希望し、選抜に通った。

プログラム内容が現地企業や大学への訪問、現地の学生との交流など、通常の渡航や語学留学ではできない貴重なものであった為、この機会を生かし、是非視野を広げたいと考えていた。また、参加を決めた理由の1つに、渡航先がベトナムとシンガポールという点もある。英語を学ぶだけならアメリカやオーストラリアへ行けばより効果的なのだろうが、著しい経済成長を続けているベトナムと様々な国の人々が暮らすシンガポールという2ヶ国だからこそ得ることができる、英語学習以外の学びがあるはずだと思ったからだ。さらに、今日、日系企業が多く進出している東南アジアだということも魅力的だった。

生の英語に1週間触れ続けることができるという機会はそうそうあるものではないので、机に向かって勉強するだけでは得られない英語力や、コミュニケーション能力、積極性を身につけ、大きく成長したいという思いを持って ASEAN グローバルプログラムに参加した。訪れた国の文化を学び、理解するのはもちろん、日本の文化を伝えることも異文化理解に繋がると考えているので、自ら発信することも目的としてベトナム・シンガポールへ向かった。

3. 研修内容

上記で述べた行程の中で、最も印象に残り、かつ自らの英語力やコミュニケーション能力、積極性が試されたと感じたプログラムがハノイ工業大学生とのPBLであり、ここではそれを報告する。

PBLとはProject Based Learningの略称であり、与えられたテーマについて、チームで協働して目的に対する答えを出すという、組織で仕事をする場合に近い形で仮想ワークを体験する手法である。今回は、鈴木栄光堂ベトナム社の商品をベトナム市場で大ヒットさせることをテーマとして活動した。日本人学生5名とベトナム人学生2名の7名のチーム（チームは全体で8チーム）で2日間かけて行った。ベトナム人学生とは、日本にいる間からSkypeのテレビ通話やMessengerを用いてコミュニケーションをとっていたが、いざ実際に対面して会話しようとしたところ、ベトナム人学生は流暢に英語を話す一方、私たちはその英語を聞き取ることにすらできず、会話と呼べるものではないと感じた。そんな状態でスタートした不安だらけのPBLであったが、紙に書いたり身振り手振りで伝えたりと、徐々に意思疎通を図ることができるようになった。

1日目は、まず目的共有をし、計画立案をした後に大学内でのリサーチ（アンケート調査）を行った。この第1回目のリサーチではベトナム人学生に頼り切りで自らアンケートを取りに行くことはほとんどできず、ベトナム人学生に言われたことをこなすだけという活動になってしまった。その後イオン

モール内でのリサーチを行えた。第1回目の反省を踏まえ、自らアンケートを取りに行こうとしたが、イオンモールを訪れていたベトナム人の多くは英語が通じず、第2回目のリサーチでもベトナム語が話せるベトナム人学生だけがリサーチを行うという結果になってしまった。アンケートの英文の下にベトナム語でも同じ文章を書いてもらうべきだったと反省した。ホテルに戻り、この日のアンケート結果をまとめ、ベトナム人学生にも電子メールで共有し、明日の方向性を決定した。この時には、顔合わせをした時よりもお互いの伝えたいことを正確に伝えることができるようになっていた。

2日目は1日目の結果からアンケートの改善を行い、その後すぐ大学内で第3回目のリサーチを行った。この第3回目のリサーチでは、自分1人で大学内の学生に話しかけてアンケートに協力してもらうことができ、積極的に行動できたことと英語が通じたことから成長を感じ、達成感を得られた。これまでのアンケート結果をまとめ、プレゼンに向けて準備を行った。

この2日間のPBL活動の中で私が1番苦労したのはこのプレゼン準備である。とても少ない時間で、大きな模造紙のどこに何を書くか、という話し合いが上手くいかず、最後までお互いの考えがうやむやのまま終わってしまった。そのままプレゼン発表の時間が来てしまった為、話す内容も相談できないままベトナム人学生にすべて話させてしまった。同じく時間が限られたなかで、うまくコミュニケーションを取ってわかりやすい発表ができていた班もあったので、とても反省した。自分の英語力の低さも実感し、とても反省点が多い2日間だったがその分学びも多かったと思う。ベトナム人学生との雑談の中で、ベトナム人は建国記念日をとても大切にしているのに対し、私たちは日本の建国記念日を誰も

答えられなかったことなどから、ベトナム人の愛国心や国民性を感じた。その他にも、休憩時間中の教室でリサーチを行った際には、教室にいた学生達に出身や年齢、名前を聞かれたり一緒に写真を撮ろうと声をかけられたり、とてもフレンドリーであり、日本ではまず見られない光景で、ここでも日本との違いを肌で感じた。

ベトナム人学生に別れを告げ、ホテルに戻った後は日本語で行う最終プレゼンの準備を行った。これは日本人学生5名のみでのプレゼンで、鈴木栄光堂ベトナム社長とマーケティングの専門家に対して行うものだった。こちらも時間はなかったものの、日本語であったためスムーズに準備を進めることができ、見事2位に選んで頂けた。大学での発表に心残りが多かった分喜びが大きかった。2日間という短い期間だったが最終的にはベトナム人学生とも仲良くなることができ、濃い時間を過ごせた。このPBLは私にとってこれからの大学生活にとってもためになる貴重な経験だった。

4. おわりに

今回このASEANグローバルプログラムに参加したことで、日本では決して得ることのできない貴重な経験をさせて頂けた。個人的には2回目の東南アジアであったが、前回とは比べ物にならないほどの学びや成長があった。初めの数日は自分の英語力の低さや消極的な面を改めて目の当たりにし落胆したが、足りない物に気づけ、残りの行程では自分から話しかけたり、当初目的としていた日本の文化を伝えることなどに積極的になれ、目に見えて成長できたと思う。この経験は、これからの大学生活はもちろん、日常生活やインターンシップ、就職活動、社会人になってからも活かしていけると思う。